

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

**\*1957～1958年頃のネガアルバムを発見—その4—(正門、本館、10mパラボラアンテナ)**

アーカイブ室新聞第492号に書いた堂平観測所資料の中にあつたネガフィルムアルバム報告の第4弾である。今回紹介する写真は、メモには正門、本館、10mパラボラアンテナ、ノイズ研究室などである。それらの写真を並べたサムネイルが写真1である。



写真1

写真2が当時の正門である。現在の正門と大差ないとも言えるが、当然のことながら門柱の表札は「東京天文台」と書かれている。写真3は当時の本館(一)と呼ばれた平屋の東西に長い建物に向かう出勤する女性2人が写っている。その右には天文時の保時、報時の

グループのいた建物が見える。本館（一）の南には小使室を挟んで本館（二）という筆者の古巣があった。

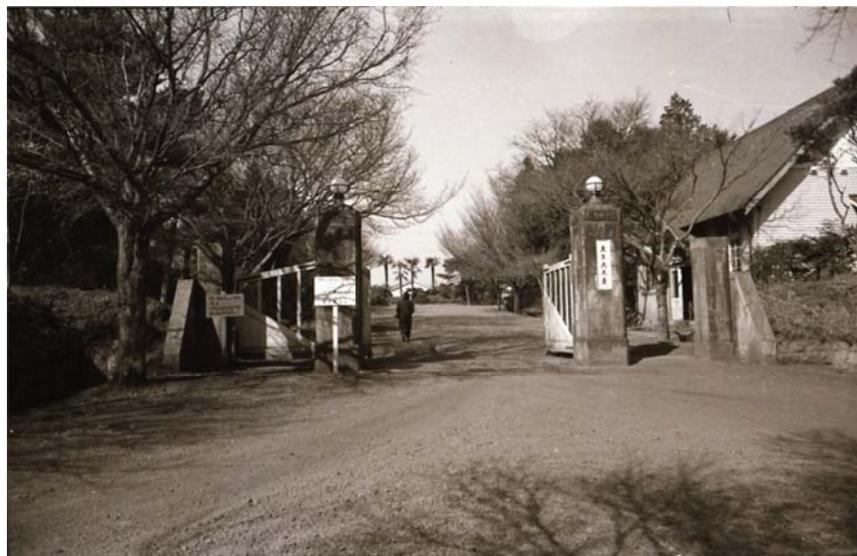


写真2 正門



写真3 左の長い建物が本館（一）、右奥の建物が天文時の建物

写真4は、三鷹キャンパスにあった10mパラボナアンテナ（太陽電波望遠鏡）の写真である。この望遠鏡については取り壊しの写真を発見した記事をアーカイブ室新聞に2回ほど書いた。この電波望遠鏡はなかなかの雄姿で美しい望遠鏡であった。昭和44年（1969年）に野辺山太陽電波観測所が建設されるまで活躍していた電波望遠鏡で、しばらくは観測を終えてもその威容を見せていたが、倒壊の恐れがあるということでいつの間にか撤去された。電波天文学の大きな足跡であったから撤去は残念であったが、危険という判断では抗しようがなかったであろうし、その頃、歴史遺産になるとも思わなかったであろう。



写真4 10m 太陽電波望遠鏡



写真5 観測室



写真6 データ出力はペンレコ

写真5は10m 太陽電波望遠鏡の観測室、写真6は計算機によるデータ取得ではなく、ペンレコーダーによっていた様子が見られる。このような時代を経て、現代の電波天文学の隆盛を得たのである。



写真7 ノイズと呼ばれたエリアにあった電波望遠鏡

写真は編波電波望遠鏡と呼ばれていたものではないかと思う。もはやこれ等について知っている御仁は国立天文台にいない。これ等の写真について何らかの情報が寄せられればと願っている。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)